



Title	複数の患者を受け持つ看護管理学実習の展開
Author(s)	良村, 貞子; 岩本, 幹子; 青柳, 道子 他
Citation	看護総合科学研究会誌, 10(3), 65-76
Issue Date	2007-12-31
DOI	https://doi.org/10.14943/37428
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38738
Type	journal article
File Information	10-3_p65-76.pdf



複数の患者を受け持つ看護管理学実習の展開

良村貞子 岩本幹子 青柳道子 渡辺玲奈 矢野理香 森下節子

(北海道大学医学部保健学科看護学専攻)

A New Nursing Administration Practicum Puts Student Nurses in Charge of Two Patients

Sadako YOSHIMURA, Mikiko IWAMOTO, Michiko AOYANAGI,

Reina WATANABE, Rika YANO, Setsuko MORISHITA

(Division of Nursing, Department of Health Sciences, School of Medicine, Hokkaido University)

要 旨

新卒看護職員の高い離職率を背景に、厚生労働省は平成 21 年度より保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部を改正し、看護基礎教育における実践的な教育内容の充実を目指している。本看護学専攻は開設当初より学生の实践能力向上に向けた教育に取り組み、平成 19 年 9 月には 4 年次の学生を対象に最終の必修実習科目として、看護管理学実習を実施した。この実習のねらいは、学生が 2 名の患者を受け持ち、看護師が立案した看護計画をもとに、1 日の看護の優先度を決定し、介入、評価について実習を行い、看護の組織的活動という視点から、看護チームにおける協働、安全管理、情報管理等について理解を深めることである。本稿では、看護管理学実習の取り組みと、实践能力向上に関する有効性について検討する。

キーワード：看護管理、実習、複数受け持ち、看護教育、实践能力

1. はじめに

日本看護協会は、平成 15 年度から 17 年度まで 3 年間連続して、病院に就職した新卒看護職員の 9.3% が 1 年以内に離職したとの調査結果を示した¹⁾。この報告は、高度化複雑化している医療の現場で、新人看護師が新たな環境に十分適用できないまま離職している問題を提起するものである。この原因にはさまざまなものが考えられるが、看護基礎教育における実践的な教育内容の不足がその一因であると言われている²⁾。

平成 19 年 4 月 16 日の「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」³⁾では、看護実践能力を

強化するために修得すべき技術項目と卒業時の到達度が示された。同報告書をもとに厚生労働省は保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部を改正し、看護基礎教育に「統合分野」を設け、看護の統合と実践を行う臨地実習 2 単位を新たに加えた。また、臨地実習においては複数患者の受け持ちや一勤務帯の実習も含む⁴⁾とし、平成 21 年 4 月からより臨床実践に近い学習内容を強化することを各看護職養成機関に求めている。

本看護学専攻は、平成 16 年 4 月の開設当初より、学生の实践能力向上を図るための教育内容の充実に向け努力してきた。平成 19 年 9 月

に行った4年次の最終の必修実習科目である看護管理学実習は1週間と短期間ではあるが、まさにこの複数患者の受け持ち実習を先取りした教育内容と考える。そこで、本稿では、本専攻の看護管理学実習の展開の実際と、実習前に実施した実習施設の指導者との会議内容、および実習評価を報告し、平成21年度から開始予定の新カリキュラムにおける効果的な統合実習を考える一助とする。

Ⅱ. 看護管理学実習の内容と評価

以下、平成19年に実施した本専攻の看護管理学実習⁵⁾の目的、目標、内容、運営方法、および単位認定を示す。

1. 実習目的

健康問題を持つ複数の対象者への援助を通して、看護がチーム医療の中でどのように展開され、継続されているのかを理解する。また、実践場面の分析をもとに、看護管理の視点に基づき、看護者に期待される役割を理解し、自己の知識・技術・態度を適切に評価し、今後の学習課題を明確にする。

2. 実習目標

- 1) 看護活動が行われている場の特性について、対象者の特性や看護チームを取り巻く環境の視点から述べるができる。
- 2) 看護チーム内での情報の共有、および看護ケアを継続する方法を説明できる。
- 3) 看護チームのリーダーとメンバー（フォロワー）が、どのように役割分担して対象者に対し看護ケアを継続しているのかを説明することができる。
- 4) 複数の対象者に対し、助言を受けながら優先度の高い看護問題に着目し、看護師が立案した看護計画に基づいて、行動計画を立案し、必要時に修正することができる。
- 5) 複数の対象者への援助を、行動計画に基づき、助言を受けながら安全管理を考慮した方法で行うことができる。
- 6) 複数の対象者に実施した援助を対象者の反

応をもとに評価し、その評価内容を指導者に伝えることができる。

7) 実施した援助について、看護記録として適切に記載することができる。

8) 受け持った対象者への援助を通して、患者中心のチーム医療がどのように実施されているのかを理解し、看護の専門性について説明し、自己の学習課題を述べるができる。

3. 実習内容と方法

1) 実習期間および時間

下記のいずれか1週間の実習であり、詳細は表1の実習プログラムに基づき展開する。

平成19年9月18日(火)～9月21日(金)

平成19年9月25日(火)～9月28日(金)

2) 実習の進め方

6病棟に各4名の学生を配置した。初めての实習であるため、1名の教員が1病棟を担当した。基本的に学生1名は看護師1名が担当する2名の患者を受け持ち、看護師の立案した看護計画をもとに、1日の看護の優先度を決定し、介入、評価について実習する。

3) 実施内容

学生は、既習の演習および実習での学習を基礎に、受け持ち患者の個別性を捉え、感染予防、誤認・誤薬防止、転倒・転落の危険防止等の安全管理に配慮し、実施計画を指導者に十分に確認のうえ、受け持ち患者の日常生活援助および診療の補助を実施する。

4) カンファレンス

(1) ケアカンファレンス

学生は、看護チームのケアカンファレンスで、受け持ち患者のケアに関する情報交換や討議に参加する。

(2) 学生カンファレンス

学生、教員および指導者が参加して行うカンファレンスにおいて、学生は看護管理の視点に基づき、主体的にテーマを決め、積極的にメンバー間で意見交換を行い、学習内容を深める機会とする。

表 1 看護管理実習プログラム

実習計画	火	水	木	金
実習時間	病棟実習 (9:00~15:00) 学内演習 (15:00~17:00)			
行動目標	1. 病棟に入院している対象者の特性、看護チームの構成、リーダー及びスタッフの役割・機能を理解し説明する。 2. 対象者の看護ケアに必要な情報を収集し、臨床指導者とともに看護ケアを実施する。 3. 対象者に必要な看護ケアを検討し、翌日の行動計画を立案する。	1. 行動計画を基に、安全管理の視点から観察を行い、必要な援助を行い、評価する。 2. 看護チームにおける情報共有の方法を理解することが出来る。	1. 看護問題の優先度を検討し、行動計画を修正・実施・評価することが出来る。 2. 看護ケアの継続について検討し、必要な情報を看護チームに伝えることが出来る。	1. 組織として看護がどのようなに提供されているのかを、実習を振り返り、説明することが出来る。 2. 患者中心のチーム医療について理解し、看護の専門性について説明することが出来る。
実習内容及び方法	1. 臨床指導者から、場のオリエンテーションを受ける。 2. 看護ケアを実施するうえで必要な診療・看護チームの情報を病棟の看護管理者から収集する。 3. 対象者の情報収集を、データベースを用いて行う。 4. 対象者へ自己紹介を行った後に、情報を収集する。 5. 対象者への看護ケアを臨床指導者とともに行う。 6. 対象者の看護計画から、翌日に予定されているケア計画を確認する。	1. 対象者の看護ケアに必要な情報収集を行い、行動計画を修正する。 2. 対象者への看護ケアを臨床指導者とともに行う。 3. 病棟カンファレンスに参加し、その目的と意義を理解する。 4. 実施した看護ケアについて必要な事項を記録する。 5. 実施した看護ケアについて、安全管理の視点から評価を行う。 ・療養生活に関するもの<転倒・転落、感染> ・診療に関するもの<薬物・医療機器> ・情報に関するもの<医療情報・患者観察> ・災害 6. 対象者の看護計画を理解し、翌日の行動計画を立案する。	1. 看護が継続されるために必要な情報収集を行い、看護計画に基づいて、行動計画を修正する。 2. 臨床指導者の指導を受けながら、受け持ち患者の看護を実施する。 3. 病棟カンファレンスに参加し、その目的と意義を理解する。 4. 実施した看護について必要な事項を記録する。 5. 看護計画と行動計画の関連について検討し、評価を行う。 6. 評価に基づき、申し送らなければならない情報を臨床指導者に報告する。 ※学生カンファレンス 看護管理の視点からテーマを決定し、ディスカッションを行う。	<学内演習> ディスカッション テーマ ・安全管理の重要性と看護者の役割 ・組織として行う看護サービスの望まれること ・チーム医療における看護師の役割
課題	・対象者へ実施した看護に関する経過記録 ・実習記録：チームとしての看護活動 ・対象者の情報をアセスメントし、安全管理に重点を置き、翌日の行動計画を立案する。	・対象者へ実施した看護に関する経過記録 ・実習記録：安全管理 ・対象者の看護計画をもとに、翌日の行動計画を立案する。	・対象者へ実践した看護に関する経過記録 ・実習記録：複数の対象者へのケア ・学内演習の準備として、レポート課題を記載する。	実習記録の提出

5) 学内演習

平成 19 年 9 月 21 日(金) または 28 日(金)

テーマ：実習を通して学んだ看護管理

①安全管理の重要性と看護者の役割

②組織として行う看護サービスに望まれること

上記のテーマ①または②について、実習で学生が学んだことをグループワークで話し合う。話し合った結果を OHP 用紙 2 枚程度にまとめ、発表する。

学内演習の準備：グループワークの準備として、「実習を通して学んだ看護管理」について各自考察し、A 4 用紙 1 枚に記述して準備する。

6) 実習のまとめ

最終レポートのテーマ：患者中心のチーム医療における看護の専門性と今後の学習課題

A 4 用紙 2 枚に 2000 字程度で、実習の自己評価をもとに、今後の課題を明確に論ずる。

4. 単位認定

単位認定には 2/3 以上の出席を要し、学生が実習記録ファイルを期限内に提出したことが前提である。担当教員は、看護管理学実習評価表(表 2)を用いて実習内容の評価を行い、実習目標の看護管理学の理解についての上記最終レポートの得点と合わせ、単位認定をする。

Ⅲ. 教員と実習指導者の教育体制

「実習指導者会議」として、実習開始の約 1 ヶ月前に、以下の内容について、実習施設の指導者に依頼し、検討を行った。

1. 実習の位置づけ

看護管理学実習は、臨地実習における最後の必修科目であり、既習の講義・演習・実習での学習をもとに、知識・技術・態度を統合する学習である。学生は、初めて 2 名の患者を受け持ち、看護師の立案した看護計画をもとに、個々の患者および複数の患者の看護ケアの優先度に着目して、行動計画を立案し、指導者とともに看護計画を実施する。また、3 年次第 1 学期に学習した看護管理学の知識をもとに、管理的な視点から看護ケア内容を理解する。

2. 実習内容と方法

1) 受け持ち患者の選定

できる限り 1 名の看護師(指導者)が日勤帯で受け持つ、実習期間に連続して担当できる 2 名の患者を選定する。看護ケアの優先度を検討するためには、受け持つ 2 名の患者の看護度に差があることが望ましい。最後の実習となるため、受け持ち患者の 1 名は、直接的な生活援助または診療の補助を実施する機会が多いことが望ましい。

2) 受け持ち患者の同意

病棟管理者があらかじめ受け持ちとなる患者から実習の承諾を得る。また、実習開始時に、学生自身が改めて患者に実習についての説明を行い、同意を得たうえで実習を開始する。

3) 看護管理学に関する学習

実習期間が短期間であるため、教員は実習開始前に病棟の看護管理に関する資料を入手する。学生は同資料を理解したうえで、実習第 1 日目に病棟看護責任者から情報収集を行う。その内容は、病棟の看護活動の概要、対象者の疾患、看護体制、患者および病棟のスケジュールなどである。

4) 病棟でのケアカンファレンスへの参加

病棟で、学生の受け持ち患者に関してケアカンファレンスが実施される場合は、学生は必ず参加する。

Ⅳ. 看護管理学実習の評価

平成 19 年度の実習評価を以下に示す。本専攻では、実習評価を他の実習と合わせ形成評価ができるように、コミュニケーション、看護過程の展開、看護技術の 3 側面から行っている。

1. コミュニケーション

看護管理学実習では、チームとして看護を提供していくために必要なチーム内でのコミュニケーションの重要性を学んだ。個々の患者に看護を実践するため、学生は、患者から直接情報収集を行うとともに、チームメンバーをはじめとする 2 次情報源を活用し、能動的に情報を収

表2 看護管理学実習評価表

学籍番号

氏 名

実習病棟

評価項目	A	B	C	D
1. 看護活動が行われている場の特性について、対象者の特性や看護チームを取り巻く環境の視点から述べることができる。	5	4	3	2
2. 看護チーム内での情報の共有、および看護ケアを継続する方法を説明できる。	5	4	3	2
3. 看護チームの構成とリーダーとメンバー（フォロワー）が、受け持った対象者に対し、どのように役割を分担して、看護ケアを継続しているのかを説明することができる。				
1) リーダーの役割について説明できる。	5	4	3	2
2) メンバー（フォロワー）の役割について説明できる。	5	4	3	2
4. 複数の対象者に対し、助言を受けながら優先度の高い看護問題に着目し、看護師が立案した看護計画に基づいて、行動計画を立案し、必要時に修正することができる。				
1) 優先度の高い看護問題に着目して、行動計画を立案し、必要時に修正することができる。	5	4	3	2
2) 複数の対象者への優先度を考慮して、行動計画を立案し、必要時に修正することができる。	5	4	3	2
5. 複数の対象者への援助を、行動計画に基づき、助言を受けながら安全管理を考慮した方法で行うことができる。				
1) 行動計画に基づき、複数の対象者に優先度を考えながら援助を実施できる。	10	8	6	4
2) 感染管理の視点に基づき援助を実施できる。	5	4	3	2
3) 薬剤管理に関する援助を実施できる。	5	4	3	2
4) 転倒・転落の危険性を防止する援助ができる。	5	4	3	2
6. 複数の対象者に実施した援助を対象者の反応をもとに評価し、その評価内容を臨床指導者に伝えることができる。				
1) 複数の対象者へ実施した援助を対象者の反応をもとに評価できる。	5	4	3	2
2) 臨床指導者へ実施した援助の評価を主体的に報告できる。	5	4	3	2
3) 病棟カンファレンスおよび学生カンファレンスに積極的に参加できる。	5	4	3	2
7. 実施した援助について、看護記録として適切に記載することができる。	5	4	3	2
8. 日々の記録物の提出は、遅滞なく適切である。	5	4	3	2
備考	実習評価点			
	/80			
	最終レポート点			
	/20			
	合計点			
				/100
出欠状況				
				/3.5
評価者				

A：極めて少しの助言・指導でできる，B：少しの助言・指導でできる，C：助言・指導により何とかできる，
D：助言・指導してもできない

集することの必要性を認識し、助言を受けながら行動した。また、患者のケアを継続するためには、学生自らが情報発信者として、看護チームや医療チームで発言することの重要性を理解することができた。また、患者－看護職者間のコミュニケーションから、医療チームおよび看護チームにおけるコミュニケーションへと視野が広がり、今後の課題を認識する機会となった。

2. 看護過程の展開

学生はこれまでの実習の積み重ねと指導者の助言により、複数の患者または看護師、記録システムから必要な情報を収集することはできていた。さらに、看護チーム内での勤務交替時の情報交換やチームのケアカンファレンスに参加することにより、対象理解を深め、介入方法を洗練しながら、看護過程がダイナミックに展開されていることを理解した。

受け持ち患者への看護提供において、看護師が立案した看護計画の意図を理解する重要性を再認識することができた。しかし、学生が看護計画をもとに主体的に行動計画を立案し実践することには、多くの助言を要した。3日間の実習期間では、患者の個別性を理解し、介入の成果を見極めるという段階までには至らなかった。また、指導者の助言を受けて実習は安全に行われた。しかし、学生にとっては、常に実践と同時にアセスメントを行い、ケアの優先度を判断するということは、それまでの実習で経験していない学習であり、実習中にもその困難さを訴えたが、この学習は、臨床におけるクリティカルシンキングの重要性と、今後もトレーニングが必要であるとの認識につながった。

本実習では、患者への援助を通して、看護管理の視点から看護者の役割を理解するという実習目的のもと、特に患者の安全管理における課題を強調した。短期間の実習ではあったが、感染管理、転倒・転落、与薬の管理について、各病棟での取り組みを理解するとともに、受け持ち患者にどのように実施されているのかを具体的に理解し、実践する機会を持つことができた。

また、複数の患者を受け持つことで、個々の患者の厳密なアセスメントをもとに、危険を予測し事故を予防することの重要性を認識できた。さらに、安全管理は独力では行えず、組織としての取り組みが必要であることに気付き、チームメンバーの協力を求めることの必要性を認識し行動できる学生もいた。実習終了後の学内演習やレポートにおいても、学生は安全管理における看護師の役割についての実感を強調しており、最終段階の実習としての、視野の広がりと言責任の自覚につながったと考える。

また、学生は実習記録に複数患者に実践した看護について記載したが、検査・治療に関するデータや患者の反応についての客観的データの記述が不足していた。看護記録には何を記載しなければならないかが、十分にトレーニングされていないという課題が明らかとなった。

3. 看護技術

学生はケア度の異なる患者2名を受け持ったことにより、看護技術を体験する機会が増えた。特に、安全管理を強調したことにより、指導者の協力を得ながら、学生は与薬に関する技術に積極的に取り組むことができた。但し、1人を受け持つという既習の実習とは異なり、個々の患者の状態に即した看護技術の実施は難しく、看護師のケア計画用紙の活用や指導者の助言に従って、その日に必要な看護技術を実施するというレベルで終了した。

4. その他

教員、指導者ともに初めての实習指導であったが、実習課題を到達するために各病棟で検討が行われ、学生も意欲的に実習を終了することができた。ほとんどの学生がとても貴重な学習の機会であったとレポートに記載した。

V. 複数患者を受け持つ実習の意義

上記の看護管理学実習の評価から、複数患者を受け持つ実習の意義が明らかになったと考える。すなわち、複数の受け持ちは、実習期間中、個々の患者に必要な看護ケアを時系列に整理、

調整し、ケアの優先度を判断せざるを得ない状況を生じさせる。これは、受け持ち患者の個性の相違を認識せざるを得ない状況でもある。また、その必要性に応じ、ケアを他の看護スタッフに依頼することや協働して行うことを体験する。さらに、患者や家族から得た情報をチーム内に伝達し、意見交換を行う必要性も生ずる。安全へのケアに関しても、複数の患者の個性を理解したうえで、チーム内でどのように役割分担し、各患者の状況に応じた対応や見守りを協働して行うかを学習できる。

また、複数の患者を受け持つことは、看護実践の機会が多くなるため、患者の個性に対応した応用看護技術を学習することにもつながる。

VI. 今後の課題

平成 19 年度の実習評価から、以下の課題が明らかとなった。すなわち、

- 1) 短期間の実習において、学生が看護実践を深めるために必要な、レディネスを整えるための具体的方略を考案する。
- 2) 看護実践を理解するために、各実習病棟における看護業務の特徴にあわせた効果的な実習時間を見直す。
- 3) 実習目標の達成度を向上させるために、実習時間の延長を検討する。
- 4) 看護管理学の初学者の実習として、課題を焦点化する。

これらの課題を解決すべく、平成 20 年度の看護管理学実習では実習期間を半日延長し、資料にある記録用紙 4-1「病棟での看護活動内容の概要」を削除し、実習課題の焦点化、および記録のスリム化と効率化を図る予定である。

VII. おわりに

複数の患者を受け持つことは容易な学習課題ではない。しかし、学生は有資格者となったときから、多くの患者に出会い看護を実践することが求められる。前述の報告書に示された看護師の卒業時の到達度は、看護師および教員の指

導のもとで実施できる、を求める技術項目が少なくない。したがって、短期間とはいえ、2名の患者を受け持つより実践的な実習内容は有益であったと考える。平成 21 年度の新カリキュラムの開始を待つまでもなく、看護教員には日常的な教育内容の検討と改善が求められている。臨地実習は言うまでもなく、知識・技術・態度を統合できる効果的な学習場面である。本稿は、この貴重な学習場面を有効に活用するための基礎資料となると考える。

引用文献

- 1) 社団法人日本看護協会ホームページ：看護職確保定着推進事業の概要，<http://www.nurse.or.jp/kakuho/pc/pdf/goal1.pdf>.
- 2) 小山真理子：新カリキュラムがめざすこと「看護基礎教育の充実に関する検討会」を終えて，看護教育，48 (7)，555-562，2007.
- 3) 看護基礎教育の充実に関する検討会：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書，厚生労働省，2007.
- 4) 滝麻衣，太田真里子：「平成 18 年度 看護職の基礎教育のあり方に関する特別委員会答申」について，看護，59 (5)，80-86，2007.
- 5) 北海道大学医学部保健学科看護学専攻実習委員会：平成 19 年度 看護学実習要項 4 年次，103-115，2007.

行動計画 (月 日)

学籍番号

氏名

時間	共通	A氏	B氏	修正内容
検査・治療予定				

事例 A		年齢	性別	男性	女性	入院	月	日
現病歴		既往歴						
主訴(入院理由):								
診断名:								
経過:								
医師から病状や治療についてどのように説明を受けているか								
身体状況		検査		Hb		Ht	BS	TP
血液型 ()		RBC		Hb		Ht	BS	TP
アレルギー: 無・有 ()		WBC		CRP				
感染症: HB・HCV・その他 ()								
身長 () cm・体重 () kg・BMI ()								
バイタルサインズ: (受け持ち時) 測定頻度 /日								
体温: °C								
脈拍: 回/分								
血圧: mmHg (左腕・右腕)								
その他								
intake								
output								
治療								
機能的健康パターン		看護目標						
栄養: 摂食方法 経口・非経口 ()		看護計画						
食事制限 無・有 ()								
摂食困難 無・有 ()								
食事の介助 無・有 ()								
皮膚状態の問題 無・有 ()								
保清方法 入浴 (自立・介助)・清拭・洗髪								
排泄: トイレ・ポータブルトイレ・便器・尿管・カテーテル								
ストーマ・ドレーン ()								
活動/運動: 活動制限 無・有 ()								
移動 歩行・杖・歩行器・車椅子・ストレッチャー								
認知/知覚: 聴力 () 視力 () その他								
装着器具: めがね・コサゲ・補聴器・義歯・ペーサー・気管カニューレ								

病棟での看護活動の概要

病棟の1週間のスケジュール（検査・治療・手術日など）	入院患者の1日のスケジュール概要と看護活動（検査・治療・リハビリテーション・ケア・家族支援・面会など）	他部門との連携 入院・退院調整
----------------------------	---	--------------------

事例	氏	時間	事項
月日		時分	

[illegible]

看護管理学実習記録用紙 4-3

学籍番号		学生氏名
安全管理：病棟で組織的に行われている安全管理		
療養に関するもの	・転倒・転落・外傷等 ・感染予防	
診療に関するもの	・指示受け業務 ・検査に関すること ・薬物療法に関すること ・機器類の操作 ・モニターに関すること	
情報の管理	・患者観察 ・情報の記録	
その他	・災害	

看護管理学実習記録用紙 4-2

学籍番号	氏名
チームとしての看護活動	
対象者の求めるケアやニーズ	
看護体制と役割分担	
看護師長	
リーダー	
スタッフ	
対象の特性	看護組織の特性

実習記録

時間	実習内容	実習の評価

A New Nursing Administration Practicum Puts Student Nurses in Charge of Two Patients

Sadako YOSHIMURA, Mikiko IWAMOTO, Michiko AOYANAGI,

Reina WATANABE, Rika YANO, Setsuko MORISHITA

(Division of Nursing, Department of Health Sciences, School of Medicine, Hokkaido University)

Abstract

The Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan has adopted new amendment regulations for Public Health Nurse, Midwife, and Registered Nurse educational institutions. The goal of these new regulations is to improve the skills taught in fundamental nursing education. These advances are particularly important with the high turnover rate of new nursing graduates at hospitals.

The Faculty of Nursing at Hokkaido University has been continually focused on improving nursing education programs and upgrading training skills. This year we implemented a new nursing administration practicum as the last compulsory subject for students. For the first time, senior students were placed in charge of two patients under the supervision of an attending nurse. The students learned priority-nursing practices as they pertain to both patients and nursing administration, including corroborating within the nursing team, patient safety, and information management. This practicum was mutually beneficial for the students.

The purpose of this report is to introduce the development and details of the practicum and to summarize how this practicum has improved student nursing practices.

Key words: nursing administration, practicum, charge of two patients, nursing education, nursing practice